

静慈圓

梵字作品88撰

高野山大学 図書館



000139305

静慈圓 著



高野山文学図書館 菊照

高野山霊宝館館長

静慈園

二〇一〇年六月

平成26年7月2日

著者 氏寄贈

静慈圓

梵字作品88撰

静慈圓著



セルバ出版

652

シ

135

まえがき

私たちが住む日本列島は、自分の意思表示において「漢字」はなくてはならない言語です。意思伝達としての「話し言葉、書き言葉」共に、漢字の介在なしに、日本の歴史は語れません。私たちにとって漢字は、空気や心臓と同じように、当たり前の言語なのです。

梵字悉曇は、日本列島では、漢字のように必要ではありません。限られた世界で特殊な人たちによって継承されてきたといえます。その中心は、密教が日本に入ってきたことにあるでしょう。つまり平安時代に空海が入唐して帰朝（804 - 806）、密教を始めたところにその淵源があります。

漢字は中国の文字ですが、梵字はインドの文字です。したがって密教を学ぶには両方の文字が必要です。つまり密教には、中国の文字・思想とインドの文字・思想の両方が必要となるのです。

中国・インドの言語・思想の理解の上に立って空海が日本化した思想、それが空海思想（真言密教）なのです。

空海は入唐して長安でインドの阿闍梨から直接にサンスクリットの文法・インド思想を学習しています。空海が長安で学んだ悉曇は、空海の直筆で「三十帖冊子」の中で見ることができます。空海が長安で学んだインドの文法・思想は、空海の著書『十住心論』の中に現れています。

今日、梵字の著書は多く出版されています。しかしそれらの著書を手にしても梵字は書けません。梵字の書き方は、阿闍梨（先生）から直接習わねばなりません。この学習方法を面授といいます。阿闍梨の指導を受けて梵字は千数百年継承されてきたのです。今日も梵字の講習会は、特に真言宗僧侶の間では、多く行われています。これは僧侶として必要だからです。

他方、一般社会で梵字は氾濫しています。梵字は特殊な字であるが故に、全く違った驚きをもって受け入れられているのでしょうか。例えば、インターネットを開いてください。

- (1) 梵字アイテムの専門販売ショップもあります。
- (2) Tシャツに梵字の多くのデザインが行われています。
- (3) キャップ（帽子）にも梵字の多くのデザインがあります。
- (4) 干支（十干・十二支）の梵字、念珠の守護梵字としての仏・菩薩、ペンダント、ブレスレット、ピアス等。
- (5) 梵字ステッカーは、自動車、携帯電話などに貼られています。

これらのことから、梵字は現代社会の中で興味を持たれている（乱用されている）といえるでしょう。

さて、今回『静慈圓梵字作品 88 撰』を発刊しました。本書は次の如く考えて作成しました。ここで選んでいる 88 の単語は、仏教用語です。

ページを見開きとする。

左ページ上方に次の如く示しました。

最初に作品番号。次に漢字の単語（カッコ内はひら仮名で読み方を書く）、次に、梵字のローマナイズ表記（カッコ内はカタカナで読み方を書く）、次に単語の読み方をローマナイズ（カッコ内は英文でのタイトルを表記）。

梵字作品は毛筆で書きました。梵字での作品は、梵字だけでは理解し難いので、元になる漢字の単語を入れて、全体を作品としました。

右ページは、単語の意味を書きました。

初めに、作品の単語の意味を書きました。梵字に興味を持っている日本人に、作品の意味を知っていただきたい。

次に、中国語での意味を書きました。漢字文化圏の人が本書を手にしたとき、作品を見ながら意味を味わっていただきたい。

更に、英語の意味を書きました。これは左ページの作品は、芸術作品であるからです。芸術は、民族を超えたものです。その立場から、この作品を芸術として英語を言語とする人たちにも味わっていただき、仏教への関心を持っていただきたい。

なぜ本書がこのような構成になったのでしょうか。それは私が弘法大師空海を学んできたからです。空海は日本人ですが、空海の思考・学問・宗教・芸術の根幹は、まずは漢字にありました。当時漢字は外来語でした。空海が当時の漢字文化圏の中心長安で学んだこと、ここで空海は国際人となりました。さらに長安においてインドを見、インド人からその言語・思想を学びました。日本歴史の中で、このようなグローバルな思考をもったのは空海だけでしょう。私はそう思うのです。

梵字（悉曇）という言語も、インド、中国と渡り日本に来ました。日本においてもその歴史をつくり、学問として文法も研究され、更に書写として芸術に高められました。芸術面では、江戸時代には「慈雲流」「澄禪流」という二大潮流になり、現代に継承されています。本書の作品は、「慈雲流」によって表現したものです。

以上を理解すると、本書が志す次のステップも見えて来たようです。それは、梵字は阿闍梨から面授を受けるということでしょう。

本書を手にした皆さまが梵字の世界に入り、切磋琢磨されることを願いつつ、筆をおきます。

平成 26 年 4 月

静 慈圓

目 次

まえがき

書

- 1 安楽 (あんらく) 12
sukha (スッカ)
Anraku (Ease)
- 2 因果 (いんが) 14
hetuphala (ヘートウパラ)
Inga (Cause And Effect)
- 3 因縁 (いんねん) 16
hetupratyaya (ヘートウプラティアヤ)
Innen (Causes and Conditions)
- 4 歌 (うた) 18
gitā (ギター)
Uta (Song)
- 5 慧眼 (えげん) 20
prajñācakṣu (プラジュニャーチャクシュ)
Egen (Eye of Wisdom)
- 6 縁 (えん) 22
pratyaya (プラティアヤ)
En (Conditions)
- 7 縁起 (えんぎ) 24
pratīyasamutpāda (プラティーティヤサムトパーダ)
Engi (Dependent Arising)
- 8 加持 (かじ) 26
adhiṣṭhāna (アディシュターナ)
Kaji (Empowerment)
- 9 戒 (かい) 28
sīla (シーラ)
Kai (Precepts)
- 10 合掌 (がっしょう) 30
aṅjali (アンジャリ)
Gaśhō (Aṅjali)
- 11 甘露 (かんろ) 32
amṛta (アマリタ)
Kanro (The Deathless)
- 12 歓喜 (かんぎ) 34
pramodya (プラモーディヤ)
Kangi (Joy)

13	観察 (かんざつ).....	36
	pratyavekṣā (プラティアヴェークシャー)	
	Kanzatsu (Observation)	
14	灌頂 (かんじょう).....	38
	abhiṣeka (アビシエーカ)	
	Kanjō (Consecration)	
15	帰依 (きえ).....	40
	śaraṇa (シャラナ)	
	Kie (Refuge)	
16	帰依仏 (きえぶつ).....	42
	buddhaṃ śaraṇaṃ gacchāmi (ブツダムシャラナムガッチャーミ)	
	Kie Butsu (I Take Refuge in the Buddha)	
17	帰依法 (きえほう).....	44
	dharmaṃ śaraṇaṃ gacchāmi (ダルマムシャラナムガッチャーミ)	
	Kie Hō (I Take Refuge in the Dharma)	
18	帰依僧 (きえそう).....	46
	saṃghaṃ śaraṇaṃ gacchāmi (サンガンシャラナムガッチャーミ)	
	Kie Sō (I Take Refuge in the Saṃgha)	
19	帰命頂礼遍照尊 (きみょうちょうらいへんじょうそん).....	48
	namomahāvairocanaīya (ナモーマハーヴァイローチャナーヤ)	
	Kimyō Chōrai Henjōson (I Take Refuge and Prostrate to Mahāvairocana Buddha)	
20	経典 (きょうてん).....	50
	sūtra (スートラ)	
	Kyōten (Sūtra)	
21	苦行 (くぎょう).....	52
	tapas (タパス)	
	Kugyō (Ascetic Practice)	
22	功德 (くどく).....	54
	guṇa (ゲナ)	
	Kudoku (Merit)	
23	供養 (くよう).....	56
	pūjā (プージャー)	
	Kuyō (Offering)	
24	空 (くう).....	58
	śūnya (シューニヤ)	
	Kū (Emptiness)	
25	解脱 (げだつ).....	60
	mokṣa (モークシャ)	
	Gedatsu (Liberation)	

26	香 (こう)	62
	gandha (ガンダ)	
	Kō (Incense)	
27	虚空 (こくう)	64
	ākāśa (アーカーシャ)	
	Kokū (Space)	
28	幸福 (こうふく)	66
	sugati (スガティ)	
	Kōfuku (Happiness)	
29	光明 (こうみょう)	68
	prabhā (プラバー)	
	Kōmyō (Light)	
30	極楽 (ごくらく)	70
	sukhavatī (スカヴァアティー)	
	Gokuraku (The Land of Ease)	
31	金剛 (こんごう)	72
	vajra (ヴァジュラ)	
	Kongō (Vajra)	
32	三輪清浄 (さんりんしょうじょう)	74
	trimaṇḍala pariśuddha (トウリマンダラパリシュツダ)	
	Sanrin Shōjō (Purity of the Three wheels)	
33	自性清浄 (じしょうしょうじょう)	76
	svabhāva śuddha (スヴァバーヴァシュツダ)	
	Jishō Shōjō (Pure in Nature)	
34	色即是空 (しきそくぜくう)	78
	yad rūpaṃ sā śūnyatā (ヤッドルーパムサーシューニヤター)	
	Shiki Soku Ze Kū (Form is Emptiness)	
35	諸行無常 (しょぎょうむじょう)	80
	anityāvatasamskārāḥ (アニティアーバタサンスカーラーハ)	
	Shogyō Mujō (All Things Are Impermanent)	
36	正覚 (しょうがく)	82
	samyaksambodhi (サミヤクサンボーディ)	
	Shōgaku (Perfect Awakening)	
37	清浄 (しょうじょう)	84
	śuddha (シュツダ)	
	Shōjō (Purity)	
38	精進 (しょうじん)	86
	vīrya (ヴィーリヤ)	
	Shōjin (Effort)	

39	寂靜 (じゃくじょう).....	88
	āśvāsa (アーシュヴァーサ)	
	Jakujō (Stillness)	
40	心 (こころ).....	90
	citta (チッタ)	
	Kokoro (Mind)	
41	真言 (しんごん).....	92
	mantra (マントラ)	
	Shingon (Mantra)	
42	真実 (しんじつ).....	94
	tattva (タットヴァ)	
	Shinjitsu (Truth)	
43	真如 (しんにょ).....	96
	tathatā (タタター)	
	Shinnyo (Suchness)	
44	神通 (じんずう).....	98
	abhijñā (アビジュニャー)	
	Jinzū (Higher Knowledges)	
45	善 (ぜん).....	100
	kuśala (クシャラ)	
	Zen (Goodness)	
46	善根 (ぜんごん).....	102
	kuśalamūla (クシャラムーラ)	
	Zengon (Good Roots)	
47	善知識 (ぜんちしき).....	104
	kalyāṇamitra (カリヤーナミトラ)	
	Zenchishiki (Good and Wise Friends)	
48	僧 (そう).....	106
	saṃgha (サンガ)	
	Sō (Saṃgha)	
49	大乘 (だいじょう).....	108
	mahāyāna (マハーヤーナ)	
	Daijō (Mahāyāna)	
50	大円鏡智 (だいえんきょうち).....	110
	ādarśajñāna (アーダルシャジュニャーナ)	
	Daienkyō-chi (Wisdom of the Great Mirror)	
51	智慧 (ちえ).....	112
	prajñā (プラジュニャー)	
	Chie (Wisdom)	

52	天女 (てんにょ)	114
	devakanyā (デーヴァカニヤー)	
	Tennyō (Heavenly Maiden)	
53	転法輪 (てんぼうりん)	116
	dharmacakrapravartana (ダルマチャクラプラヴァルタナ)	
	Tenbōrin (Turning the Wheel of Dharma)	
54	灯明 (とうみょう)	118
	pradīpa (プラディーパ)	
	Tōmyō (Lamps)	
55	如意宝珠 (にょいほうしゅ)	120
	cintāmaṇi (チンターマニ)	
	Nyoihōshu (Wish-Fulfilling Jewel)	
56	如来 (によらい)	122
	tathāgata (タターガタ)	
	Nyorai (Tathāgata)	
57	涅槃寂静 (ねはんじゃくじょう)	124
	sāntaṃnirvāṇaṃ (シャーンタムニルヴァーナム)	
	Nehan Jakujō (Nirvāṇa is Peace)	
58	念 (ねん)	126
	smṛti (スムリティ)	
	Nen (Mindfulness)	
59	八功德水 (はっくどくすい)	128
	aṣṭāṅgotavāri (アシュターンゴーペータヴァーリ)	
	Hakkudoku-sui (Water of Eight Virtues)	
60	花 (はな)	130
	puṣpa (プシュパ)	
	Hana (Flower)	
61	彼岸 (ひがん)	132
	pāramitā (パーラミター)	
	Higan (The Other Shore)	
62	不可得 (ふかとく)	134
	anupalabdha (アヌパラブダ)	
	Fukatoku (Ungraspable)	
63	不殺生 (ふせっしょう)	136
	prāṇātipātaviraṃṣa (プラーナーティパータヴィラマナ)	
	Fuseshō (To Not Harm Living Things)	
64	不退転 (ふたいてん)	138
	avivartika (アヴィヴァルティカ)	
	Futaiten (Determination)	

65	不動心 (ふどうしん).....	140
	akṣobhyacitta (アクショービャチッタ)	
	Fudōshin (Immovable Mind)	
66	福 (ふく).....	142
	punya (プニヤ)	
	Fuku (Merit)	
67	仏 (ぶつ).....	144
	buddha (ブツダ)	
	Butsu (Buddha)	
68	平安 (へいあん).....	146
	kṣema (クシェーマ)	
	Anraku (Peace)	
69	菩薩 (ぼさつ).....	148
	bodhisattva (ボーディサットヴァ)	
	Bosatsu (Bodhisattva)	
70	宝珠 (ほうしゅ).....	150
	maṇi (マニ)	
	Hōshu (Jewel)	
71	発菩提心 (ほつぼだいしん).....	152
	bodhicittotpāda (ボーディチットートパーダ)	
	Hotsu Bodaishin (Give rise to <i>bodhicitta</i>)	
72	満月 (まんげつ).....	154
	candramaṇḍala (チャンドラマンダラ)	
	Mangetsu (Full Moon)	
73	妙観 (みょうかん).....	156
	vipaśyanā (ヴィパシャナー)	
	Myōkan (Subtle Contemplation)	
74	妙香 (みょうこう).....	158
	manojñagandha (マノージュニャガンダ)	
	Myōkō (Subtle Incense)	
75	無我 (むが).....	160
	nirātma (ニラートマ)	
	Muga (Non-Self)	
76	無礙 (むげ).....	162
	asaṅga (アサンガ)	
	Muge (Non-obstruction)	
77	無所得 (むしょとく).....	164
	aprāpti (アブラープティ)	
	Mushotoku (No fixed frame of reference)	

78	無盡 (むじん)..... 166 akṣaya (アクシャヤ) Mujin (Inexhaustible)
79	蓮華 (れんげ)..... 168 padma (パドマ) Renge (Lotus)
80	和顔愛語 (わがんあいご)..... 170 priyālāpa (プリアーラーパ) Wagan Aigo (A Gentle Face and Kind Words)
81	龍猛 (りゅうみょう)..... 172 nāgārjuna (ナーガールジュナ) Ryūmyō (Nāgārjuna)
82	龍智 (りゅうち)..... 174 nāgabodhi (ナーガボーディ) Ryūchi (Nāgabodhi)
83	金剛智 (こんごうち)..... 176 vajrabodhi (ヴァジュラボーディ) Kongōchi (Vajrabodhi)
84	不空 (ふくう)..... 178 amoghavajra (アモーガヴァジュラ) Fukū (Amoghavajra)
85	善無畏 (ぜんむい)..... 180 śubhākarasiṃha (シュバーカラシンハ) Zenmui (Śubhakarasiṃha)
86	南無阿弥陀仏 (なむあみだぶつ)..... 182 namoamitaṃ (ナモー アミタヴッハ) Namu Amida Butsu (I take refuge in Amitābha Buddha)
87	光明真言 (こうみょうしんごん)..... 184 Om amogha-vairocana mahāmudra maṇi-padma-jvara pravartaya hūm (オン アボキャ ベイロシャノウ マカボダラ マニ ハンドマ ジンバラ ハラバリタヤ ウン (日本語の発音)) Kōmyō Shingon (Light Mantra)
88	阿字 (あじ)..... 186 a (ア) Aji (The Letter A)

仏画

両界種子曼荼羅 (金剛界)..... 188
両界種子曼荼羅 (胎藏界)..... 189

1 安楽 (あんらく)

sukha (スツカ)

Anraku (Ease)



1 安楽 (あんらく)

sukha (スッカ)

Anraku (Ease)

- 安らかで心地よい状態を意味する。いわゆる幸福にあたる。
阿弥陀仏の西方極樂浄土を<安楽國><安楽世界>と呼んでいる。
- 身心愉悦安定的幸福状态。把阿弥陀佛的西方极乐净土称作<安乐国>、<安乐世界>。
- This means a pleasant and enjoyable state of mind. The Western Paradise of Amitābha is called the Land of Ease, or Sukhāvātī.

2 因果 (いんが)

hetuphala (ヘートウパラ)

Inga (Cause And Effect)



2 因果 (いんが)

hetuphala (ヘートウパラ)

Inga (Cause And Effect)

- 原因と結果のこと。結果を生み出すものを<因>といい、その因によって生じたものが<果>である。すべての事象は、原因があれば結果があるというのが、因果の道理である。
- 指原因和结果。产生结果的因素为<因>、依因产生的结果为<果>。所有事物的现象有因必有果、这是因果的道理。
- All phenomena are subject to the principle of cause and effect.

3 因縁 (いんねん)

hetupratyaya (ヘートウプラティアヤ)

Innen (Causes and Conditions)



3 因縁 (いんねん)

hetupratyaya (ヘートウプラティアヤ)

Innen (Causes and Conditions)

- 仏教では、因と縁、または因も縁も同じ意味（因即縁）ということで、一つに結びつけられた。ともに<原因>を意味する語であるが、のちに因を直接原因、縁を間接原因とした。
- 在佛教里因和缘是同一个意思（因即縁）连接在一起表原因，因表直接原因缘表间接原因。
- In Buddhism, all phenomena are bound together in a web of causes and conditions. These two words both have the same meaning, but later cause came to mean a direct cause, and condition an indirect cause.

4 歌 (うた)

gītā (ギター)

Uta (Song)



4 歌 (うた)

gītā (ギター)

Uta (Song)

- 神仏を讃える歌詠。
- 赞叹佛菩薩的颂歌。
- Songs of praise to the Buddhas or gods.

5 慧眼 (えげん)

prajñācakṣu (プラジュニャーチャクシュ)

Egen (Eye of Wisdom)



5 慧眼 (えげん)

prajñācakṣu (プラジュニャーチャクシュ)

Egen (Eye of Wisdom)

- 物質的・精神的な全てのものを見とおす眼。心眼しんげんとは、肉眼では見る
ことのできないようなさえぎられた物質を、禪定三昧（坐禪）の力に
よって透とおし見すること。
- 能够透视一切精神和物质现象的法眼。心眼是指通过禅定的功夫看到肉
眼看不到的一切微细物质。
- The eye that perceives all material and mental phenomena. Through
the power of meditation, the mind's eye penetrates those things that
are physically obscured or invisible to the ordinary eyes.

6 縁 (えん)

pratyaya (プラティアヤ)

En (Conditions)



6 縁 (えん)

pratyaya (プラティアヤ)

En (Conditions)

- 広義には、あらゆる条件（原因一般）をいい、狭義には、結果を引き起こすための直接原因を<因>というのに対して、これを外から補助する間接的原因を<縁>という。
- 从广义上指所有一般条件，从狭义上指引发结果的直接原因，而对此起辅足作用的间接原因则称<縁>。
- In the broad sense, this means the full range of causes. In the narrow sense, conditions are the indirect causes that assist the direct causes in bringing about a result.

7 縁起 (えんぎ)

pratīyasamutpāda (プラティーティヤサムトパーダ)

Engi (Dependent Arising)



7 縁起 (えんぎ)

pratityasamutpāda (プラティーティヤサムトパーダ)

Engi (Dependent Arising)

- 一切のもの（精神的な働きも含む）は種々の因（直接原因）や縁（間接原因）によって生じるという考えを表す。
- 认为所有现象（包括精神现象）依止种种因（直接原因）縁（間接原因）而产生。
- This is the teaching that all things (including mental activities) arise due to many kinds of causes (direct conditions) and conditions (indirect causes).

8 加持 (かじ)

adhiṣṭhāna (アディシュターナ)

Kaji (Empowerment)



8 加持 (かじ)

adhiṣṭhāna (アディシュターナ)

Kaji (Empowerment)

- 空海著『即身成佛義』では、仏から衆生に対する働きかけを<加>といい、衆生（行者）が仏からの働きかけを受け止めることを<持>となづける。行者は、手に印契（仏の印相）を結び、口に眞言（仏の言葉）を唱え、心を三摩地（仏の境地）に住することで、行者と仏が一体となることを<三密加持>という。三密加持により、衆生は本尊と合一を達成し、即身成仏を得る。
- 在空海的《即身成佛義》中佛对众生的作用称之为<加>，众生（修行者）对佛作用的接受称之为<持>。修行者手结佛印，口诵真言，心安住于佛境界的三摩地，与佛合二为一称之为<三密加持>。通过三密加持的作用，众生与本尊合为一体即得即身成佛的成就。
- Empowerment or *adhiṣṭhāna* is written with two characters meaning to “add” and to “hold.” Kūkai wrote that adding is the activities of the Buddhas toward beings, and holding is when beings receive and uphold that activity. The practitioner does this by forming mudrās with the hands, repeating mantras with the mouth, and abiding in *samādhi* with the mind. This is the empowerment of the three mysteries that leads to identity with the Buddha, and the attainment of Buddhahood in this lifetime.

9 戒 (かい)

sīla (シーラ)

Kai (Precepts)



9 戒 (かい)

sīla (シーラ)

Kai (Precepts)

- 仏教教団の修行規範を示す用語。修行規則を守ろうとする自律的な決心。善を行い悪行を止めるための戒め。
- 佛教教团的修行规范用语。表遵守修行规则的自律决心。止恶扬善的戒定。
- Precepts are training rules for Buddhist monks. They are the determination to discipline oneself. By following these precepts we do what is good and cease from doing evil.

10 合掌 (がっしょう)

añjali (アンジャリ)

Gasshō (Añjali)



10 合掌 (がっしょう)

añjali (アンジャリ)

Gasshō (Añjali)

- 顔や胸の前で両手の掌を合わせること。敬礼法の一つ。仏教徒が仏や本尊に対して礼拝するとき、この礼法を用いる。
- 在脸或胸前合掌,属礼敬法的一种。佛教徒在礼拜佛与本尊时用的礼法。
- To hold the palms together in front of the face or chest is a way of expressing respect. Buddhists use this hand position when honoring the Buddha.

11 甘露 (かんろ)

amṛta (アムリタ)

Kanro (The Deathless)



11 甘露 (かんろ)

amṛta (アマリタ)

Kanro (The Deathless)

- 神々の飲料としてのソーマ酒、飲めば不死を得る。仏教では涅槃^{ねはん}のことを表す。苦悩を癒し、長命を得るとされる。甘露味^{かんろみ}とは、最高の味のこと。
- 作为神的饮料糍粑酒，喝了可不死，在佛教中表涅槃，是医治烦恼获得长寿的象征。甘露味是最美妙的法味。
- This is *soma*, the nectar of the gods that gives immortality. In Buddhism this means Nirvāṇa. It is the easing of troubles and attainment of longevity. The taste of nectar is the highest taste.

12 歡喜 (かんぎ)

pramodya (プラモーディヤ)

Kangi (Joy)



12 歡喜 (かんぎ)

pramodya (プラモーディヤ)

Kangi (Joy)

- 仏教の教えを聞き真実の信心を得て往生が決定したとき、身心ともに喜びに包まれること。歡は身を喜ばすこと。喜は心を喜ばすこと。
- 闻到佛法生起对真理的信心决心往生时，身心充满的法喜。欢是身体愉快，喜是心中快乐。
- When we hear the teachings of the Buddha and deeply accept them, birth in Amitābha's paradise is guaranteed, and we then experience a state of mental and physical joy.

13 観察 (かんざつ)

pratyavekṣā (プラティアヴェークシャー)

Kanzatsu (Observation)



13 観察 (かんざつ)

pratyavekṣā (プラティアヴェークシャー)

Kanzatsu (Observation)

- 澄み切った理知の働きによって、もろもろのありのままの姿や性質を観察すること。心の中に浮かぶ種々のイメージを観察する場合は、観^{かん}想^{そう}ともいう。
- 通过洞彻通达的理智作用，观察诸法实象。对心中浮现的种种印象进行观察时叫观想。
- With a lucid mental state one can observe all phenomena just as they really are. Meditation is the observation of one's own arising mental phenomena.

14 灌頂 (かんじょう)

abhiṣeka (アビシエーカ)

Kanjō (Consecration)



14 灌頂 (かんじょう)

abhiṣeka (アビシェーカ)

Kanjō (Consecration)

- 密教で行う、頭頂に水を注ぎかける儀式。もとインドの国王の即位式で行った儀式であり、四海の水をもって頂に灌ぎ祝意を表した。密教ではこの儀式を取り入れ、阿闍梨あじやりが如来の五智を象徴する水を弟子の頂に灌ぐ作法によって、仏の位を継承させる。
- 在密教中举行向头顶洒水的仪式。源于印度国王的即位仪式。取四海之水注于头顶以示祝贺。密教采取此仪式，上师通过把象征如来五智的水滴灌入弟子头顶的作法，将佛的法位传承下去。
- In Esoteric Buddhism, consecration or *abhiṣeka* is the rite of anointing the crown of the head with water. In ancient India this was a rite of coronation, in which a king's head was anointed with waters from the four seas. In Esoteric Buddhism, the master anoints the disciple's head with the waters of the Five Buddhas, and so doing bestows on him the lineage of the Buddha.

15 帰依 (きえ)

śaraṇa (シャラナ)

Kie (Refuge)



15 帰依 (きえ)

śaraṇa (シャラナ)

Kie (Refuge)

- すぐれたものに対して自己の身心を投げ出して信奉すること。
- 对殊胜事物的一种全身心的投入和信奉。
- Refuge is a complete mental and physical reliance on something excellent.

16 帰依仏 (きえぶつ)

buddaṃ śaraṇaṃ gacchāmi (ブツダムシャラナムガッチャーミ)

Kie Butsu (I Take Refuge in the Buddha)



16 帰依仏 (きえぶつ)

buddaṃ śaraṇaṃ gacchāmi (ブツダムシャラナムガッチャーミ)

Kie Butsu (I Take Refuge in the Buddha)

- 仏に帰依すること。
- 皈依佛。
- To take refuge in the Buddha.

17 帰依法 (きえほう)

dharmam śaraṇam gacchāmi (ダルマムシャラナムガッチャーミ)

Kie Hō (I Take Refuge in the Dharma)



17 帰依法 (きえほう)

dharmam śaraṇam gacchāmi (ダルマムシャラナムガッチャーミ)

Kie Hō (I Take Refuge in the Dharma)

- 法に帰依すること。
- 皈依法。
- To take refuge in the Dharma.

18 帰依僧 (きえそう)

saṃghaṃ śaraṇaṃ gacchāmi (サンガンシャラナムガッチャーミ)

Kie Sō (I Take Refuge in the Saṃgha)



18 帰依僧 (きえそう)

saṃghaṃ śaraṇaṃ gacchāmi (サンガンシャラナムガッチャーミ)

Kie Sō (I Take Refuge in the Saṃgha)

- 僧に帰依すること。仏と法と僧は共に尊く、三宝といわれる。三宝に帰依することを<三帰依>といい、これは仏道に入る第一歩である。
- 皈依僧。礼尊的佛法僧称三宝。皈依三宝称<三皈依>，这是入佛道的第一歩。
- To take refuge in the Saṃgha. The Buddha, Dharma, and Saṃgha are the Triple Jewel of Buddhism. To take refuge in the Triple Jewel is the first step taken on entering the Buddha's path.

19 歸命頂禮遍照尊 (きみようちようらいへんじょうそん)

namomahāvairocanāya (ナモーマハーヴァイローチャナーヤ)

Kimyō Chōrai Henjōson

(I Take Refuge and Prostrate to Mahāvairocana Buddha)



19 歸命頂礼遍照尊 (きみようちようらいへんじょうそん)

namomahāvairocanāya (ナモーマハーヴァイローチャナーヤ)

Kimyō Chōrai Henjōson

(I Take Refuge and Prostrate to Mahāvairocana Buddha)

- 歸命は、歸依すること。頂礼は、頂くこと。遍照尊は大日如来のこと。大日如来に歸依すること。
- 皈命是皈依。顶礼是恭敬受领。遍照尊是大日如来。皈依大日如来。
- This means to take refuge in Mahāvairocana Buddha.

20 経典 (きょうてん)

sūtra (スートラ)

Kyōten (Sūtra)



20 経典 (きょうてん)

sūtra (スートラ)

Kyōten (Sūtra)

- 仏の教えをしるした、お経の本。釈尊が仏教を説いた時は、書き言葉はなく、話し言葉で説教した。書き言葉ができると、釈尊の話しを聞いた弟子達は、「如是我聞」(私は、このように聞いた)と書き記した。そこで経典は、「如是我聞」から始まることとなった。密教の経典をTANTRA といい、密教以外の全ての経典を顕教けんきょうの経典 SŪTRA と呼ぶ。
- 纪录佛言教的经书。释尊在说法时用的是口语而不是书面语。释尊的弟子把释尊的话语纪录成书面语时就成为“如是我闻”(我是这样听说的)。于是佛经是从“如是我闻”开始的。密教经典称为“袒特拉”，此外的显教经典叫“舒特拉”。
- A Sūtra is a sacred text giving the teachings of the Buddha. When Śākyamuni Buddha preached the Dharma, he did so orally, not through writing. When writing developed, his disciples wrote down what they had heard, beginning each text with the words, “Thus have I heard.” The sacred texts of Esoteric Buddhism are called Tantras, and the sacred texts of exoteric Buddhism are the Sūtras.

21 苦行 (くぎょう)

tapas (タパス)

Kugyō (Ascetic Practice)



21 苦行 (くぎょう)

tapas (タパス)

Kugyō (Ascetic Practice)

- 苦行とは、自然の欲望を抑えて精神力を鍛えることを目的とする。人はこれらに堪えて精神力を養うが、更により積極的・人為的に肉体を苦しめることを求めた。肉体的な苦痛に耐える間に、より強度の神秘力・神通力を己の内に蓄積すると信じられていた。
- 苦行的目的是抑制欲望，锻炼意志，长养耐力及精神意志，乃至更积极的人为的追求肉体痛苦，坚信自己潜在的巨大神秘力和神通力。
- Ascetic practice aims at controlling natural desires and cultivating spiritual power. It was believed that by enduring physical suffering, strong mystical or spiritual powers could be achieved.

22 功德 (くどく)

guṇa (グナ)

Kudoku (Merit)



22 功德 (くどく)

guṇa (グナ)

Kudoku (Merit)

- 善根を行うことにより、その人に備わった徳性をいう。功德を積むことによって解脱へ進むと考えられている。
- 修行善培养的善根所具备的徳性。认为积功累德是获得解脱的资量。
- Merit means the virtues a person accumulates through practicing good deeds. It is thought that by accumulating merit one can advance toward liberation.

23 供養 (くよう)

pūjā (プージャー)

Kuyō (Offering)



23 供養 (くよう)

pūjā (プージャー)

Kuyō (Offering)

- ㊦ 寺院の本尊・宗教的偉人などに尊敬をもって、香花・飲食・資材などのものを捧げること。
また、死者の冥福を祈る〈追善供養・ついぜんくよう〉や、このために率塔婆を立てる〈塔婆供養・とぼくよう〉などがある。
- ㊦ 礼敬佛菩萨、寺院的本尊、宗教伟人等时设供香花、饮食等物品。还有祈祷死者冥福的“追善供养”和为此所立的牌位“塔婆供养”。
- ㊦ Offerings are offerings of incense, flowers, food, water, and so on out of respect to the object of worship in a temple, or to a great religious person. Sometimes a mock *stūpa* may be made and offered in prayer for the repose of the dead.

24 空 (くう)

śūnya (シューニヤ)

Kū (Emptiness)



24 空 (くう)

śūnya (シューニヤ)

Kū (Emptiness)

- 一切のものは、因縁によって生じたものであるから、固定した実体性をもたない。それ自身で存在する独立した実体などないのだ。インド人が、世界で最初に発見したゼロと同じといえよう。
- 一切法依因縁生滅，没有固定实体也没有自身独立存在的实体。可以说是印度人最初发现的世界等同零。
- Everything arises due to causes and conditions, and so is lacking in any unchanging or real substantiality. Things do not actually exist independently of each other. This may be thought of as similar to the zero, which the Indians discovered first.

25 解脱 (げだつ)

mokṣa (モークシャ)

Gedatsu (Liberation)



25 解脱 (げだつ)

mokṣa (モークシャ)

Gedatsu (Liberation)

- 束縛から解き放たれること。仏教では、煩惱ぼんのうから解放されて自由な心境となること。
- 指从束縛中解放出来。在佛教中指从烦恼中解放出来, 获得自由的心境。
- Liberation means freedom from bondage. In Buddhism, liberation is mental state that has become free from the afflictions.

26 香 (こう)

gandha (ガンダ)

Kō (Incense)



26 香 (こう)

gandha (ガンダ)

Kō (Incense)

- 香を薫じたり、身に塗ったりして、悪臭を取り除く。仏の供養に取り入れられたことにより、香は重要な習慣となった。沈香^{じんこう}、白檀^{びやくたん}などを用いる。
- 熏香、涂身、消除恶臭，供佛时采用。香的使用成为重要习惯。常用陈香、白檀等。
- Incense is burned or rubbed on the body to remove unpleasant smells. By including this among the offerings given in Buddhism, the use of incense became an important custom. Aloeswood, sandalwood, and other kinds of incense are employed.

27 虚空 (こくう)

ākāśa (アーカーシャ)

Kokū (Space)



27 虚空 (こくう)

ākāśa (アーカーシャ)

Kokū (Space)

- 一切のものが何のさまたげもなく、自由に存在し運動し変化し機能することができる空間。虚空藏菩薩こくうぞうとは、虚空の如く無量の智慧や功德を蔵する菩薩。
- 万法皆空，自由自在能够运动变化的空间。虚空藏菩萨就是如同虚空含藏无量智慧功德的菩萨。
- Space means the space in which things are completely unhindered and free to exist, act, and transform. Space Treasury Bodhisattva (Ākāśagarbha) is a Bodhisattva possessing a treasury of infinite wisdom and merits that are as vast as space.

28 幸福 (こうふく)

sugati (スガティ)

Kōfuku (Happiness)



28 幸福 (こうふく)

sugati (スガティ)

Kōfuku (Happiness)

- 恵まれた状態にあって、満足に楽しく感ずること。反対は不幸。
- 幸運の状態，十分満足の感觉。反之不幸。
- Happiness is a blessed and satisfied state. The opposite is unhappiness.

29 光明 (こうみょう)

prabhā (プラバー)

Kōmyō (Light)



29 光明 (こうみょう)

prabhā (プラバー)

Kōmyō (Light)

- 仏の智慧・慈悲を象徴するものとして用いられる。仏陀の偉人化・神格化と平行してかなり初期から仏と光明との関係が説かれた。
- 作为佛智慧・慈悲的象征被使用。与佛陀的伟人化・神格化等同。从佛教初期就阐释出佛与光的这种关系。
- Light is used as a symbol of the Buddha's wisdom and compassion. The relationship between the Buddha and light is discussed in some quite early texts along with the glorification and deification of the Buddha.

30 極楽 (ごくらく)

sukhavatī (スカヴァティー)

Gokuraku (The Land of Ease)



30 極楽 (ごくらく)

sukhavatī (スカヴァティー)

Gokuraku (The Land of Ease)

- 「楽のあるところ」という意味。一般には阿弥陀仏の住する世界を指す。『阿弥陀経』には「これより西方十万億の仏土を過ぎて世界あり、名付けて極楽という」とあり、極楽世界の楽に満ちた光景を描写している。
- 意思是“有快乐的地方”。一般指阿弥陀佛所居住的世界。在《阿弥陀经》中“距此超越西方十万亿佛土中有世界，名曰极乐”经中描述了极乐世界里充满快乐的景象。
- The “Land of Ease” or Sukhāvātī usually refers to Amitābha Buddha’s Pure Land. The *Sukhāvātivyūha-sūtra* says that the world called the Land of Ease is in the western direction after passing a hundred trillion worlds, and describes the appearance of that peaceful world.

31 金剛 (こんごう)

vajra (ヴァジュラ)

Kongō (Vajra)



31 金剛 (こんごう)

vajra (ヴァジュラ)

Kongō (Vajra)

- 宝石としての金剛は、金剛石（ダイヤモンド）のこと。武器としての金剛は、こんごうしよ金剛杵のこと。何ものにも破壊されず、あらゆるものを打ち砕く。〈金剛堅固・こんごうけんご〉・〈金剛不壊・こんごうふえ〉などと熟字する。
- 作为宝石的金刚为金刚石。作为武器的金刚为金刚杵。不能被任何东西破坏，能打破所有东西。有“金刚坚固”“金刚不坏”之称。
- As a gemstone, vajra means a diamond. As a weapon, it is a mace-like object that can destroy anything but cannot itself be destroyed. It is used in expressions like, “as hard as a diamond,” and “as indestructible like a diamond.”

32 三輪清淨 (さんりんしょうじょう)

trimaṇḍala pariśuddha (トウリマンダラパリシュツダ)

Sanrin Shōjō (Purity of the Three Wheels)



32 三輪清淨 (さんりんしょうじょう)

trimaṇḍala pariśuddha (トゥリマンダラパリシュッタ)

Sanrin Shōjō (Purity of the Three Wheels)

- 布施とは何か。三輪清淨である。即ち布施をする人（施者）、布施する相手（受者）、布施する物品（施物）の三つが清淨である。そこに布施の行為が成り立つ。
- 何谓布施。谓之三轮清静。所有布施的人（施者）、布施的对方（受者）、布施的物品（施物）三者清静，才可谓布施。
- Genuine charity requires what is called the purity of the three wheels, meaning the purity of the giver, of the recipient, and of what is given. This is what constitutes genuine charity.

33 自性清浄 (じしょうしょうじょう)

svabhāva śuddha (スヴァバーヴァシュツダ)

Jishō Shōjō (Pure in Nature)



33 自性清淨 (じしょうしょうじょう)

svabhāva śuddha (スヴァバーヴァシュッタ)

Jishō Shōjō (Pure in Nature)

- 心は生まれながら清淨である意。人間は、自性としては清淨である(本来清淨)が、煩惱によって汚れている、とする。
- 心生来清静的意思。人的自性本来清静，只是被烦恼所染污。
- “Pure in nature” means that the mind is innately pure. Beings are originally pure by nature, but become defiled by afflictions.

34 色即是空 (しきそくぜくう)

yad rūpaṃ sā śūnyatā (ヤッドルーパムサーシューニヤター)

Shiki Soku Ze Kū (Form is Emptiness)



34 色即是空 (しきそくぜくう)

yad rūpaṃ sā śūnyatā (ヤッドルーパムサーシューニヤター)

Shiki Soku Ze Kū (Form is Emptiness)

- 色 (いろ・かたちとして実在しているもの) は、それ自体が実体として存在しているのではない。徹底して実体・実体的な見方を排除することによって、自由な境地が見えてくる。
- 色 (作为颜色・形状的实体) 本身没有实体。只有彻底的排除放下实体的想法看法, 才能见到自由的真空妙有境界。
- Form (shape, color, etc.) does not have a substantial and independent existence. By thoroughly eliminating views of any real and substantial existence, a state of freedom is attained.

35 諸行無常 (しょぎょうむじょう)

anityāvatasamskārāḥ (アニティアーバタサンスカーラーハ)

Shogyō Mujō (All Things Are Impermanent)



35 諸行無常 (しょぎょうむじょう)

anityāvatasamskārāḥ (アニティアーバタサンスカーラーハ)

Shogyō Mujō (All Things Are Impermanent)

- 今ある一切のものは、常に変化し流動する (即ち無常である)。
- 眼前的一切东西，常处运动变化之中 (即无常)。
- Everything that exists now is constantly in a state of flux (i.e. they are impermanent).

36 正覚 (しょうがく)

samyaksambodhi (サミヤクサンボーディ)

Shōgaku (Perfect Awakening)



36 正覚 (しょうがく)

samyaksambodhi (サミヤクサンボーディ)

Shōgaku (Perfect Awakening)

- 正しく完全な悟り。釈尊が菩提樹の下で成就した悟り。悟りの内容は、「四諦」、「八正道」、「縁起」、「真如」などの思想で説く。
- 完全彻底正确的觉悟。释尊在菩提树下成就的觉悟。觉悟的内容用“四蹄”、“八正道”、“缘起”、“真如”等思想来阐述。
- This is perfect and complete awakening, such as Śākyamuni Buddha attained under the Bodhi Tree. What is awakened to includes the Four Noble Truths, the Eightfold Noble Path, Dependent Origination, Suchness, and so on.

37 清浄 (しょうじょう)

śuddha (シュツダ)

Shōjō (Purity)



37 清淨 (しょうじょう)

śuddha (シュツダ)

Shōjō (Purity)

- まなづら 煩惱のけがれがなく、清らかなこと。煩惱とは、身心を乱し悩ませ、正しい判断をさまたげるはたらきであり、物事への執着から生ずる。
- 清静不被烦恼染污。烦恼是指烦恼起作用迷乱身心，障碍正确的判断，是从对事物的执著中产生的。
- Purity is freedom from the defilements of the afflictions. The afflictions arise from obsessions and attachments. They confuse the mind and body and prevent us from making correct judgments.

38 精進 (しょうじん)

vīrya (ヴィーリヤ)

Shōjin (Effort)



38 精進 (しょうじん)

vīrya (ヴィーリヤ)

Shōjin (Effort)

- 本来は、俗縁を断って出家し、ひたすら宗教的生活に生きることをいう。それが在家仏教者にとって、魚虫鳥獣の肉類を食べない意味へと転化した。
- 本指断俗縁出家，专心从事宗教生活。后来变成在家学佛者不吃鱼虫鸟兽肉类的意思。
- **Effort** originally referred to the assiduous devotion to the religious **life** of monks who had left their home lives. For lay practitioners, this **evolved** into meaning the practice of abstention from meat and fish.

39 寂靜 (じゃくじょう)

āśvāsa (アーシュヴァーサ)

Jakujō (Stillness)



39 寂靜 (じゃくじょう)

āśvāsa (アーシュヴァーサ)

Jakujō (Stillness)

- 安らかで心地よい状態。
- 娴静安逸的愉悦状态。
- Stillness is a peaceful state of mind.

40 心 (こころ)

citta (チッタ)

Kokoro (Mind)



40 心 (こころ)

citta (チッタ)

Kokoro (Mind)

- 漢字としては心臓の形をしている。一般には、感情・知性・意志などの総称として用いられる。ものや身体とは、区別されると考えられる。
- “心”的汉字呈现的是心藏的形状。一般用于情感・知性・意志等总称。认为区别于物体和身体。
- The Chinese character shows the shape of a heart. Mind is the general term for the emotions, intellect, volitions, and so on. Physical objects and the body are thought to be distinct from mind.

41 真言 (しんごん)

mantra (マントラ)

Shingon (Mantra)



41 真言 (しんごん)

mantra (マントラ)

Shingon (Mantra)

- 本来は、古代インドで神々にたいしての神聖な呪句をいった。この呪句を唱える習俗が密教に取り入れられ、中国に伝来した際に、その呪句が「真言」と訳された。
- 原本在古印度是对神的一种神圣咒语。密教导入这种诵咒习俗传到中国时，咒语被译成“真言”。
- Mantras were originally sacred words used to invoke the gods in ancient India. The custom of reciting such words was brought into Esoteric Buddhism. When imported to China, mantra was translated as *shingon* (true words).

42 眞実 (しんじつ)

tattva (タットヴァ)

Shinjitsu (Truth)



42 眞実 (しんじつ)

tattva (タットヴァ)

Shinjitsu (Truth)

- うそや飾りのない、本当のこと。漢訳仏典から現れる言葉で、それ以前の中国の文献には見られない。「真如」と同じ。
- 没有谎言和雕饰的真实事实。在汉译佛经中出现的词汇。之前的中国文献中没有出现。同“真如”。
- Truth is what is not false, without embellishment. This word appears in Chinese Buddhist translations for the first time, and is the same in meaning as Suchness.

43 真如 (しんにょ)

tathatā (タタター)

Shinnyo (Suchness)



3 真如 (しんにょ)

tathatā (タタター)

Shinnyo (Suchness)

- 2 あるがままの意。釈尊が事物をあるがままに観察して発見した心理をこのように規定づけた。なお、「真如」という漢語は、老荘の「真」の思想をふまえて仏教者が新造した。仏教特有の真理観を示している。
- 2 本来面目的意思。釋尊如此規定用本来面目的心态来观察发现事物。另外“真如”一语是以老庄“真”的思想为基础新造的。表示佛教特有的真理观。
- 2 Suchness is the natural state of things. Śākyamuni Buddha meditating on things as they really are, and used this term to describe the mental state he realized. The Chinese term for suchness was created by Buddhists based on a Daoist term for truth, but revealing the unique Buddhist understanding of truth.

44 神通 (じんずう)

abhiññā (アビジュニャー)

Jinzū (Higher Knowledges)



44 神通 (じんずう)

abhijñā (アビジュニャー)

Jinzū (Higher Knowledges)

- 優れた洞察力。超自然的な知の意。禅定などにより得られる、人知を超えた自由自在な能力。神通力ともいう。
- 殊勝的洞察力。超自然的知力。通过禅定获得的超越人知力的自由自在的能力。叫作神通力。
- The higher knowledges are superior powers of observation. They are supernormal knowledges attained through deep meditation. They are free and unimpeded powers beyond the understanding of ordinary people. These are also called spiritual powers.

45 善 (ぜん)

kuśala (クシャラ)

Zen (Goodness)



45 善 (ぜん)

kuśala (クシャラ)

Zen (Goodness)

- 仏教は、善悪を超越するということ。『法句経』に「諸々の悪をなさず。善を保ち、みずからの心を清めること、これが諸仏の教えである」と説かれる。
- 佛教是超越善恶的。《法句经》说“诸恶莫做，众善奉行，自心清静，这是诸佛的教导”。
- Buddhism transcends the dualism of good and evil. The *Dhammapada* says that the teaching of the Buddha is to abstain from evil, practice what is good, and purify our own minds.

46 善根 (ぜんこん)

kuśalamūla (クシャラムーラ)

Zengon (Good Roots)



46 善根 (ぜんこん)

kuśalamūla (クシャラムーラ)

Zengon (Good Roots)

- 善を樹木の根にたとえたもの。即ち根が花や果実をつけるもとであるのと同様に、善はよい「果報」をもたらすもとであることからの造語。
- 把善比喻成树木的根。即有根才能开花结果，同样引申为善可以带来好的“果报”。
- This word likens goodness to the roots of a tree. The flowers and fruits of a tree are only possible because of the roots. In the same way, goodness is the basis for experiencing good results.

47 善知識 (ぜんちしき)

kalyāṇamitra (カリヤーナミトラ)

Zenchishiki (Good and Wise Friends)



47 善知識 (ぜんちしき)

kalyāṇamitra (カリヤーナミトラ)

Zenchishiki (Good and Wise Friends)

- 良き友、真の友人の意。仏教の正しい道理を教え利益を与えて導いてくれる人。
- 良师益友的意思。教给我们佛的正确道理，惠与真实利益的导师。
- This means good and true friends who guide us on the Buddha's path by teaching us what is true and giving us benefit.

48 僧 (そう)

saṃgha (サンガ)

Sō (Saṃgha)



48 僧 (そう)

sangha (サンガ)

Sō (Samgha)

- <僧伽・そうぎゃ>と音訳し、<和合衆>などと意識され、仏教の教団を指す用語となった。僧は仏陀の教えを実行し、その教えの真実であることを世間に示し、衆生を救済する。
- “僧伽”の音译，“和合众”的意译。指佛教教团用语。僧实践佛陀教诲，并将这真实的教导示显于世间，救度众生。
- This is the assembly of Buddhist monks, also called the harmonious assembly. Monks practice the Buddha's teachings and explain the truth of those teachings to the world to liberate all beings.

49 大乘 (だいじょう)

mahāyāna (マハーヤーナ)

Daijō (Mahāyāna)



49 大乘 (だいじょう)

mahāyāna (マハーヤーナ)

Daijō (Mahāyāna)

- 大きな乗物。自利に専心する出家者（小乗）ではなく、利他に励む出家者を大乘の菩薩という。大乘とは、あらゆる衆生を乗せて悟りに導く大きな乗物（教え）のこと。
- 大的承载工具。不是专心自利的小乘出家者，把鼓励利他的出家者称为大乘菩萨。大乘是指引导所有众生乘上通向觉悟的大乘工具（教诲）。
- Mahāyāna means the “great vehicle.” Unlike those monks who are only concerned with their own liberation (Hīnayāna, the small vehicle), Mahāyāna monks work for the liberation of others, and are called Bodhisattvas. Mahāyāna is the great vehicle (teaching) that all beings can ride to attain enlightenment.

50 大円鏡智 (だいえんきょうち)

ādarśajñāna (アーダルシャジュニャーナ)

Daienkyō-chi (Wisdom of the Great Mirror)



50 大円鏡智 (だいえんきょうち)

ādarśajñāna (アーダルシャジュニャーナ)

Daienkyō-chi (Wisdom of the Great Mirror)

- 密教が分類する「五智」の一つ。鏡に像が映ずる如くに、すべての相を如実に現しだし処理する能力。
- 密教分类的“五智”之一。如同镜子的映像，能将所有相，如实真实的显相处理。
- The Wisdom of the Great Mirror is one of the five kinds of wisdom taught in Esoteric Buddhism. This is the ability to observe and manage all things just as they really are, just as a mirror reflects all images.

51 智慧 (ちえ)

prajñā (プラジュニャー)

Chie (Wisdom)



51 智慧 (ちえ)

prajñā (プラジュニャー)

Chie (Wisdom)

- 智と慧とは一般には同義に用いられ、あるいは合して智慧ともいう。広い意味で用いられる場合は、煩惱を壊滅し正しく処理して行ける能力。
- 智和慧一般作同义词用，或者合起来叫智慧。广义上是具有破烦恼正确处理事物的能力。
- The two characters used to write the word wisdom both separately have that meaning. When wisdom is used in the broad sense, it means the ability to eliminate and properly manage the afflictions.

52 天女 (てんによ)

devakanyā (デーヴァカニヤー)

Tennyō (Heavenly Maiden)



52 天女 (てんにょ)

devakanyā (デーヴァカニヤー)

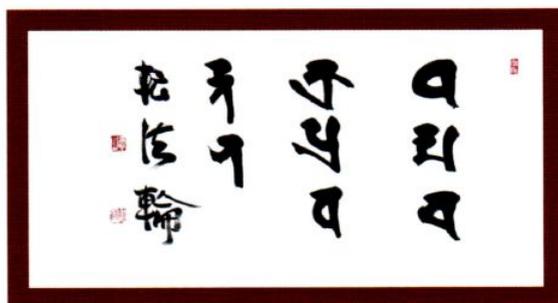
Tennyō (Heavenly Maiden)

- 神の娘の意。神々の世界すなわち天に生まれた女性のこと。
- 意思是神的女儿。出生在神的世界即天上的女性。
- A heavenly maiden is a daughter of a god. She is a goddess born into the realm of the gods.

53 転法輪 (でんぼうりん)

dharmacakrapravartana (ダルマチャクラプラヴァルタナ)

Tenbōrin (Turning the Wheel of Dharma)



53 転法輪 (でんぼうりん)

dharmacakrapravartana (ダルマチャクラプラヴァルタナ)

Tenbōrin (Turning the Wheel of Dharma)

- 仏の説法をいう。インド古代の聖王が持っていたと伝えられる輪（武器の一種）が転がって自在に敵を摧破するように、仏の説法も衆生の迷いを破るので「法輪」と呼ばれた。
- 指佛的说法。传说古印度的圣王所持的轮（武器的一种），转起来能自在的破敌，如此比喻佛的说法因能破除众生的迷惑，所以称作“法轮”。
- This means the preaching of the Buddha. In ancient India, the universal monarch was said to have a wheel (a kind of weapon) that could be rolled to crush all enemies. The preaching of the Buddha is similarly able to destroy all the confusions of beings, and so that preaching is called “turning the wheel.”

54 灯明 (とうみょう)

pradīpa (プラディーパ)

Tōmyō (Lamps)



54 灯明 (とうみょう)

pradīpa (プラディーパ)

Tōmyō (Lamps)

- 二 花や線香などとともに仏像や仏壇に供えられる灯(ともしび)のこと。仏典一般には、迷いを打ち破る智慧にたとえられる。
- 二 指在佛壇上佛像前与花、香一起供养的燃灯(灯火)。在佛经上被比喻成打破迷误的智慧。
- 二 Along with flowers, incense, and so on, lamps are offered to Buddhist images and at altars. In many Buddhist texts, lamps are symbolic of wisdom that overcomes confusion.

55 如意宝珠 (にょいほうしゅ)

cintāmaṇi (チンターマニ)

Nyoihōshu (Wish-Fulfilling Jewel)



55 如意宝珠 (にょいほうしゅ)

cintāmaṇi (チンターマニ)

Nyoihōshu (Wish-Fulfilling Jewel)

- 意の欲するままに種々なる珍宝をだす徳がある宝珠のこと。
- 具有如意变幻种种珍宝德能的宝珠。
- The wish-fulfilling jewel can produce all kinds of rare treasures at will.

56 如来 (によらい)

tathāgata (タターガタ)

Nyorai (Tathāgata)



56 如来 (によらい)

tathāgata (タターガタ)

Nyorai (Tathāgata)

- ┆ もっぱら釈尊の呼称である。さらに大乘仏教では諸仏の呼称ともなった。
- ┆ 释尊的专用称呼。也是大乘佛教诸佛的专称。
- ┆ *Tathāgata* was a term used exclusively for Śākyamuni Buddha. In Mahāyāna Buddhism it is also used to mean any of the many Buddhas.

57 涅槃寂静 (ねはんじゃくじょう)

śāntamṇirvāṇam (シャーンタムニルヴァーナム)

Nehan Jakujō (Nirvāṇa is Peace)



57 涅槃寂静 (ねはんじゃくじょう)

śāntaṃnirvāṇaṃ (シャーンタムニルヴァーナム)

Nehan Jakujō (Nirvāṇa is Peace)

- こ 煩悩の炎の焼き消された悟りに世界（涅槃）は、静かな安らぎの境地（寂静）である。
- こ 堯尽烦恼火焰的觉悟世界（涅槃）是寂静安逸的境地。
- こ The state of enlightenment (Nirvāṇa) is a still and peaceful state in which the flame of the afflictions have been extinguished.

58 念 (ねん)

smṛti (スMRIテイ)

Nen (Mindfulness)



58 念 (ねん)

smṛti (スメリティ)

Nen (Mindfulness)

- かつて経験したことを、いつも心に思うこと。
- 心中总想着经历的念头。
- Mindfulness means always keeping past experiences in mind.

59 八功德水 (はっくどくすい)

aṣṭāṅgopetavāri (アシュターンゴーペータヴァーリ)

Hakkudoku-sui (Water of Eight Virtues)



59 八功德水 (はっくどくすい)

aṣṭāṅgopetavāri (アシュターンゴーペータヴァーリ)

Hakkudoku-sui (Water of Eight Virtues)

- 〚 極楽浄土の池に満ちる水で、八種のすぐれた特質を具えている。甘い、冷たい、やわらかい、軽い、澄みきる、臭みがない、飲む時のどを損なわない、飲み終って腹を痛めない。
- 〚 极乐净土的池塘中充满的水，具备八种殊胜的特质。甘甜、清凉、柔软、轻安、清澈、无嗅、饮用时保护嗓子、饮用后腹中舒适。
- 〚 The water of the ponds in the Pure Land have eight excellent qualities: sweetness, coolness, softness, lightness, clarity, scentlessness, not hurting the throat when drunk, and not causing water poisoning.

60 花 (はな)

puspa (プシュパ)

Hana (Flower)



60 花 (はな)

puṣpa (プシュパ)

Hana (Flower)

- 【関連語】^{まんじゆさげ}曼珠沙華。日本では、彼岸花をいう。仏典には天から降りそそぐ天華として説かれる。
- 【関連語】曼珠沙華。在日本称彼岸花。佛经上称从天而降的天华。
- [Related word] The cluster-amaryllis flower, called a *higan-bana* in Japan, in Buddhist texts is said to be a celestial flower that falls from heaven.

61 彼岸 (ひがん)

pāramitā (パーラミター)

Higan (The Other Shore)



61 彼岸 (ひがん)

pāramitā (パーラミター)

Higan (The Other Shore)

- 迷いの生存を此方の岸<此岸・しがん>といい、これに対して悟りの世界を彼方の岸<彼岸>という。
- 迷惑的生存世界称“此岸”，对岸的觉悟世界称“彼岸”。
- The world of confusion is called “this shore.” Opposed to that is the “other shore” of enlightenment.

62 不可得 (ふかとく)

anupalabdha (アヌパラブダ)

Fukatoku (Ungraspable)



62 不可得 (ふかとく)

anupalabdha (アヌパラブダ)

Fukatoku (Ungraspable)

- 推察し求めてもその存在を認知することができないこと。
- 即便推测求证也无法认知其存在。
- A thing is ungraspable when no matter what sort of inferences may be made, its existence cannot be recognized.

63 不殺生 (ふせっしょう)

prāṇātīpātaviraṃaṇa (プラーナーティパータヴィラマナ)

Fuseshō (To Not Harm Living Things)



63 不殺生 (ふせっしょう)

prāṇātipātaviramāṇa (プラーナーティパータヴィラマナ)

Fusesshō (To Not Harm Living Things)

- 仏教で善とは樂の果をもたらし行為をいう。その代表的な十の行為が十善である。殺生してはいけない（不殺生）は、その一つで最もしてはならない行為である。
- 在佛教中善是招致乐果的行为。最具代表性的十行为是十善。其中的不杀生是最不被允许的行为。
- In Buddhism, a good action brings about favorable results. There are ten representative good actions. Not to harm living things is one of them, and is the most important of all.

64 不退転 (ふたいてん)

avivartika (アヴィヴァルティカ)

Futaiten (Determination)



64 不退転 (ふたいてん)

avivartika (アヴィヴァルティカ)

Futaiten (Determination)

- 仏道修行を怠らずに励みしりぞかないこと。一般に、何事にも屈せず固く信じて心を曲げないこと。
- 指在佛教修行上坚持不懈的努力。一般指做任何事坚定不屈信心不退。
- Determination in Buddhist practice means to make efforts without slacking. In ordinary terms, this is a firm and unwavering conviction that does not yield.

65 不動心 (ふどうしん)

akrobyacitta (アクシヨービアチッタ)

Fudōshin (Immovable Mind)



65 不動心 (ふどうしん)

akṛobhyacitta (アクシヨービアカッタ)

Fudōshin (Immovable Mind)

- 〇 動揺しない心。
- 〇 不动揺之心。
- 〇 The mind that cannot be shaken.

66 福 (ふく)

punya (プニヤ)

Fuku (Merit)



66 福 (ふく)

punya (プニヤ)

Fuku (Merit)

- 福德とも訳す。世間的な幸福をもたらす行為を指す。
- 译成福德。指带来世间幸福的行为。
- Merit consists of actions that bring about worldly happiness.

67 仏 (ぶつ)

buddha (ブツダ)

Butsu (Buddha)



67 仏 (ぶつ)

buddha (ブツダ)

Butsu (Buddha)

- ☐ もとはインド一般に、心理を悟った聖者を意味していた。仏教の歴史においては、仏教の開祖釈尊を指す。
- ☐ 原来在印度一般意味着心理上觉悟的圣者。在佛教历史上指佛教的祖师释尊。
- ☐ In India, a saint who had attained some mental state was generally called a buddha. In the history of Buddhism, the Buddha is the founder of Buddhism, Śākyamuni.

68 平安 (へいあん)

kşema (クシエーマ)

Anraku (Peace)



68 平安 (へいあん)

kṣema (クシエーマ)

Anraku (Peace)

- 〇 無事でおだやかなこと。
- 〇 安穏无事。
- 〇 This is calm tranquility.

69 菩薩 (ぼさつ)

bodhisattva (ボーディサットヴァ)

Bosatsu (Bodhisattva)



69 菩薩 (ぼさつ)

bodhisattva (ボーディサットヴァ)

Bosatsu (Bodhisattva)

- 大乘仏教では、自分一人の悟りを求めて修行するのではなく、自分自らが悟りの真理を携えて現実世界の中に下り立ち、世のため人のために（慈悲行を）実践し、すすんでは悟りの真理によって現実社会の浄土化に努める者をいう。
- 指在大乘佛法里修行的目的不在个人的解脱，而是将自身悟的真理带到现实世界中，为社会为众生行慈悲行，努力用真理净化社会的人。
- In Mahāyāna Buddhism a Bodhisattva is one who does not seek only personal enlightenment, but chooses to remain in the world to engage in compassionate activities toward beings. A Bodhisattva furthermore attempts to establish our world as a Pure Land through the truth of enlightenment.

70 宝珠 (ほうしゅ)

maṇi (マニ)

Hōshu (Jewel)



70 宝珠 (ほうしゅ)

maṇi (マニ)

Hōshu (Jewel)

- C 摩尼^{マニ}とも訳す。両語を連ねて「摩尼宝珠」とも呼ぶ。宝珠は、不幸災難を除き濁水を清めるなどの徳があるとされる。
- C 也译成摩尼。连起来也叫“摩尼宝珠”。宝珠被认为具有消除灾难与不幸，净化浊水的功德。
- C A jewel is also called a *maṇi*. It has the virtues of removing misfortune and hardship, purifying muddy water, and so on.

71 発菩提心 (ほつぼだいしん)

bodhicittotpāda (ボーディチットートパーダ)

Hotsu Bodaishin (Give rise to *bodhicitta*)



71 発菩提心 (ほつぼだいしん)

bodhicittotpāda (ボーディチットートパーダ)

Hotsu Bodaishin (Give rise to *bodhicitta*)

- この上なき正しい目覚めに向かう心を起こすこと。転じて、目的意識をもって何かを思い立つこと。
- 指发起生起无上正等正觉的心量。转变成具有某种目的意识的发心。
- This means to give rise to the thought of attaining supreme and perfect awakening. By extension it means resolve with a clear knowledge of the goal that is sought.

72 満月 (まんげつ)

candramaṇḍala (チャンドラマンダラ)

Mangetsu (Full Moon)



72 満月 (まんげつ)

candramaṇḍala (チャンドラマンダラ)

Mangetsu (Full Moon)

- 【関連語】月輪観 (がちりんかん)。満月の月輪を対象として、そこに自らの悟りを体現しようとする観想 (瞑想法)。
- 【関連語】月輪観。以満月の月輪为对象, 试图体验自身开悟的观想 (瞑想法)。
- [Related word] *Gachirinkan* is a meditation using the image of a full-moon disc to realize enlightenment.

73 妙観 (みょうかん)

vipāśyanā (ヴィパシヤナー)

Myōkan (Subtle Contemplation)



73 妙観 (みょうかん)

vipāśyanā (ヴィパシャナー)

Myōkan (Subtle Contemplation)

- 心を集中して特定の対象に向けて思念して悟りに至る方法を観法^{かんぼう}という。観法は、その方法もいろいろであるが、観法によって得た境地を妙観という。
- 对某一特定对象实行聚精会神的思念观想,以至达到开悟的方法叫观法。观法有各种各样,依止观法得到的境界叫妙观。
- Visualization is a method for concentrating the mind on a particular object to attain enlightenment. There are many methods of visualization, and the state achieved through them is called “subtle contemplation.”

74 妙香 (みようこう)

manojñagandha (マノージュニャガンダ)

Myōkō (Subtle Incense)



74 妙香 (みょうこう)

manojñagandha (マノージュニャガンダ)

Myōkō (Subtle Incense)

- 香のかおりは、悪臭を取り除くばかりでなく癒しとなる。身に塗るものを<塗香・ずこう>といい、燃やすものを<薫香・くんこう>、<焼香・しょうこう>という。仏教では行法的な体験によって得た“香り”を妙香という。
- 香味不仅能去除恶臭还有愈治功能。涂到身上叫“涂香”、燃烧的叫“熏香”、“烧香”。在佛教里因修行而体验的“香气”叫妙香。
- The scent of incense removes unpleasant smells, and is also soothing. Incense powder rubbed onto the body is called *zukō*, and incense that is burned is called *kunkō* or *shōkō*. In Buddhism, the scent that is perceived in meditation is called the “subtle incense.”

75 無我 (むが)

nirātma (ニラートマ)

Muga (Non-Self)



75 無我 (むが)

nirātma (ニラートマ)

Muga (Non-Self)

- 我的説明は、いろいろな説がある。人間は眼(見る)・耳(聞く)・鼻(嗅ぐ)・舌(味わう)・身(触れる)・意(こころ)の諸要素に執着するところに我執がしゅうができる。無我とはこの我執から解放された心をいう。
- “我”的解释有各种说法。人因执着眼(见)・耳(闻)・鼻(嗅)・舌(味)・身(触)・意(识)而生出我执。无我指从我执中解脱出的心的状态。
- There are several theories about the self. Attachment to the self is when people cling to the perceptions of the eyes (sight), ears (hearing), nose (smell), tongue (taste), body (touch), and mind. Non-self is when we are liberated from such attachment to the self.

76 無礙 (むげ)

asaṅga (アサンガ)

Muge (Non-obstruction)



76 無礙 (むげ)

asaṅga (アサンガ)

Muge (Non-obstruction)

- 無礙とも書く。自由自在に融通して障りのないこと。とけあって互いにさまたげとならないことを圓融無礙という。
- 也写成无碍。指自由自在圆通无障。相互融合互不妨碍叫圆融无碍。
- Being without impediment is a state of freedom and identity without hindrance. When there is full identity without any obstruction, that is called perfect and unobstructed identity.

77 無所得 (むしょとく)

aprāpti (アプラープティ)

Mushotoku (No fixed frame of reference)



77 無所得 (むしょとく)

aprāpti (アプラープティ)

Mushotoku (No fixed frame of reference)

- 何ものにも執着しない自由な境地。
- 对任何事物不执著的自由境界。
- This is a free state without any clinging.

78 無盡 (むじん)

akṣaya (アクシャヤ)

Mujin (Inexhaustible)



78 無盡 (むじん)

akṣaya (アクシャヤ)

Mujin (Inexhaustible)

- 尽きることがないこと。
- 指没有尽头。
- This means having no end or limit.

79 蓮華 (れんげ)

padma (パドマ)

Renge (Lotus)



79 蓮華 (れんげ)

padma (パドマ)

Renge (Lotus)

- 泥中に生じて泥に汚されず清浄な花を開くから珍重される。仏教では煩惱から^{げだつ}解脱して涅槃の清浄の境地を目指すたとえとする。
- 出污泥而不染，因于污泥中开出清静的花朵而珍贵。在佛教中比喻志在从烦恼中解脱出来到达清静涅槃的境地。
- The lotus grows through muddy water, but when the flower blooms it is pure and unsoiled by the mud. In Buddhism, the lotus is used to show that we seek the pure state of Nirvāṇa, which is liberation from the afflictions.

80 和顔愛語 (わがんあいご)

priyālāpa (プリーラーパ)

Wagan Aigo (A Gentle Face and Kind Words)



80 和顔愛語 (わがんあいご)

priyālāpa (プリーヤーラーパ)

Wagan Aigo (A Gentle Face and Kind Words)

- 穏やかな顔をして、やさしい言葉で話しかける人間でありたい。
- 和顔悦色、话语温柔充满爱意的人。
- We hope to have a gentle appearance and speak to others with kind words.

81 龍猛 (りゅうみょう)

nāgārjuna (ナーガールジュナ)

Ryūmyō (Nāgārjuna)



81 龍猛 (りゅうみょう)

nāgārjuna (ナーガールジュナ)

Ryūmyō (Nāgārjuna)

- 真言密教では、師より弟子へと密教の教えを相続して伝えてきた阿闍梨がおり、その第七番目を「恵果」とする（空海著『広付法伝』、『略付法伝』）。したがって第八番目が空海となる。師から弟子へ伝える相承系譜は「付法の八祖」と「伝持の八祖」の二つの流れがある。「伝持の八祖」（又は住持の八祖）とは、大日如来と金剛薩埵を省き、龍猛、龍智、金剛智、不空、善無畏、一行、恵果、空海である。
- 在真言密教中，法是由上师到弟子代代相传的。上师称阿闍梨。第七祖为“惠果”（空海著『広付法伝』、『略付法伝』）。接着空海为第八祖。由上师到弟子的传承系谱有“傳法八祖”和“传持八祖”两种流派。“传持八祖”（又称住持八祖）省去大日如来和金剛薩埵依次是龙猛、龙智、金剛智、不空、善无畏、一行、惠果、空海。
- In Shingon Buddhism, the teachings of Esoteric Buddhism are transmitted from the master to the student. The seventh master-teacher of Shingon Buddhism was Huiguo, and thus the eight master-teacher was Kūkai. The lineage of the transmission from master to student has two forms: the Eight Lineage Patriarchs and the Eight Transmission Patriarchs. The Eight Transmission Patriarchs do not include Mahāvairocana and Vajrasattva. They are: Nāgārjuna, Nāgabodhi, Vajrabodhi, Amoghavajra, Śubhakarasiṃha, Yixing, Huiguo, and Kūkai.

82 龍智 (りゅうち)

nāgabodhi (ナーガボーディ)

Ryūchi (Nāgabodhi)



82 龍智 (りゅうち)

nāgabodhi (ナーガボーディ)

Ryūchi (Nāgabodhi)

- 真言密教の第二祖 龍猛の付法の弟子。南インドの婆羅門ぼらもんの生まれともいわれる。法を弘め人を利し、天に上り地に入ること無礙自在であったという。
- 真言宗第二祖，龙猛的傳法弟子。传说出生于南印度婆罗门，弘法利生，天上人间自在无碍的出入。
- The second Patriarch of Shingon Buddhism was Nāgabodhi, the disciple of Nāgārjuna. He was born a Brahman in south India. To spread the teachings and give benefit to others, he was able to ascend to heaven or enter the earth at will.

83 金剛智 (こんごうち)

vajrabodhi (ヴァジュラボーディ)

Kongōchi (Vajrabodhi)



83 金剛智 (こんごうち)

vajrabodhi (ヴァジュラボーディ)

Kongōchi (Vajrabodhi)

- 真言密教の第三祖。中インドの王子とも、南インドのマラヤ国の婆羅門の生まれともいわれる。南インドで「金剛頂經」系こんごうちょうきょうの密教を修め、海路を経由して中国に入った。玄宗の後援のもとに、洛陽と長安にあって、主として「金剛頂經」系統の經典を翻訳した。
- 真言宗第三宗。传说与中印度王子一起出生于南印度的玛雅国婆罗门。在南印度修习《金剛頂經》系密教，经由海路进入中国。在玄宗的护持下于洛阳和长安主要翻译了《金剛頂經》系统的佛经。
- Vajrabodhi was the third Patriarch of Shingon Buddhism. He is said to have been a prince in central India, or a Brahman from south India. In south India he mastered the Vajraśekhara teachings of Esoteric Buddhism, and then went by sea to China. With the support of Emperor Xuan Zong, he translated mainly texts of the Vajraśekhara group in Luoyang and Chang'an."

84 不空 (ふくう)

amoghavajra (アモーガヴァジュラ)

Fukū (Amoghavajra)



84 不空 (ふくう)

amoghavajra (アモーガヴァジュラ)

Fukū (Amoghavajra)

- 真言密教の第四祖 金剛智の付法の弟子。北インドの婆羅門出身の父と、康国人を母として西域に生まれた。十歳の時中国に来る。金剛智の入京（719）に会い弟子となる。玄宗について立った肅宗の要請に応じて、戦乱鎮圧の修法を行い帝の信頼を得る。
- 真言宗第四祖，金剛智的傳法弟子。出生于西域，其父为北印度婆罗门母亲是康国人。十岁时来到中国。在金剛智入京时（719）得以会面成其弟子。应玄宗的继承者肅宗的请求实行了平息战乱的修法而得以信赖。
- The fourth Patriarch of Shingon Buddhism was Amoghavajra, the disciple of Vajrabodhi. He was born in the regions west of China as the son of a north Indian Brahmin and a woman from Samarkand. He went to China at the age of 10, and in 719 he met Vajrabodhi in the capital and became his disciple. According to the wishes of the Emperor Su Zong inherited from Emperor Xuan Zong, he performed ceremonies to bring peace to the state, and earned the Emperor's trust.

85 善無畏 (ぜんむい)

śubhākarasiṃha (シュバーカラシンハ)

Zenmui (Śubhākarasiṃha)



85 善無畏 (ぜんむい)

śubhākarasiṃha (シュバーカラシンハ)

Zenmui (Śubhākarasiṃha)

- 真言密教の第五祖。先祖をマガダ国王とする家系に生まれる。ナーランダ^{だるまきくた}寺において達磨掬多について密教を学んだ。彼が密教のサンスクリット原典をたずさえ、中央アジアを^{だるまきくた}通って長安に到着したのは、開元四年（716）のことである。玄宗に信任される。
- 真言密宗第五祖。出生于祖先为玛噶搭国王血统的世家。于那烂陀寺随达摩掬多学习密法。开元四年（716）携带密宗梵文佛经路径中亚到达长安，得到玄宗的信任。
- The fifth Patriarch of Shingon Buddhism was Śubhakarasiṃha, who was a member of the royal family of Magadha in India. He studied Esoteric Buddhism in Nālandā from Dharmagupta. He arrived in Chang'an in 716 bearing Sanskrit texts on Esoteric Buddhism. He had the confidence of Emperor Xuan Zong.

86 南無阿弥陀仏 (なむあみだぶつ)

namoamitavuh (ナモー アミタヴッハ)

Namu Amida Butsu (I take refuge in Amitābha Buddha)



86 南無阿弥陀仏 (なむあみだぶつ)

namoamitavuh (ナモー アミタヴッハ)

Namu Amida Butsu (I take refuge in Amitābha Buddha)

- 南無は、帰依するの意。阿弥陀仏（仏）に帰依する、となる。南無妙法蓮華経は、妙法蓮華経つまり『法華経』（経）に帰依する、となる。南無大師遍照金剛は、大師号をもっている遍照金剛つまり空海（人間）に帰依する、となる。日本の仏教信仰は、このように（仏）・（経）・（人間）を崇拝する三つの形態がある。南無阿弥陀仏は、浄土教信仰（念仏信仰）として平安後期から全国的に広まった。
- 南无是皈依的意思。皈依阿弥陀佛。南无妙法莲花经就是皈依妙法莲花经即《法华经》。南无大师遍照金刚就是皈依具有大师法号的遍照金刚空海（人间）。日本佛教具有尊崇（佛）（经）（人间）三种形态。南无阿弥陀佛作为净土宗信仰（念佛信仰）是从平安后期传到全国。
- *Namu* means to take refuge. This phrase means “I take refuge in Amitābha Buddha.” *Namu Myōhō Rengekyō* means “I take refuge in the Lotus Sūtra.” *Namu Daishi Henjō Kongō* means “I take refuge in Henjō Kongō, or Kūkai, who received the title of Great Teacher.” Japanese Buddhism thus has the threefold tendency to honor a Buddha, a Sūtra, or a person. Reciting *Namu Amida Butsu* was a widely popular practice within the Pure Land faith beginning from the late Heian period.

87 光明真言 (こうみょうしんごん)

Oṃ amogha-vairocana mahāmudra maṇi-padma-jvara pravartaya hūṃ
(オン アボキャ ベイロシャノウ マカボダラ マニ ハンドマ ジ
ンバラ ハラバリタヤ ウン (日本語の発音))

Kōmyō Shingon (Light Mantra)



87 光明真言 (こうみょうしんごん)

Om amogha-vairocana mahāmudra maṇi-padma-jvara pravartaya hūṃ
(オン アボキャ ベイロシャノウ マカボダラ マニ ハンドマ ジ
ンバラ ハラバリタヤ ウン (日本語の発音))

Kōmyō Shingon (Light Mantra)

- 光明真言は、宗派を問わず、一番多く誦えられ親しまれている真言である。日本の読み方は、カタカナで示した。不空の解釈によると、「この真言を誦すると一切の罪障も、たちどころに無くなり、極楽浄土におもむく」とある。鎌倉時代の明恵上人、興正菩薩えいぜん尊によって一般に普及していった。密教では、大日如来の真言そのものとして信仰されている。
- 光明真言是不拘宗派被大量诵读和亲近的真言。日文的诵读方法用片假名标注。据不空的解释“诵读此真言即刻消除一切业障前往极乐净土”由廉仓时代的明惠上人、兴正菩萨睿尊普及传播开来。在密宗大日如来真的真言也依此被信奉。
- The Light Mantra is the most popular mantra in Japan, transcending sectarian lines. The Japanese pronunciation is shown in *katakana* to the right of the Siddham letters. According to Amoghavajra's interpretation, by reciting this mantra all transgressions are immediately eliminated and birth in the Pure Land is attained. It was popularized by the monks Myōe and Eison in the Kamakura period. In Esoteric Buddhism, it is believed to be the mantra of Mahāvairocana.

88 阿字 (あじ)

a (ア)

Aji (The Letter A)

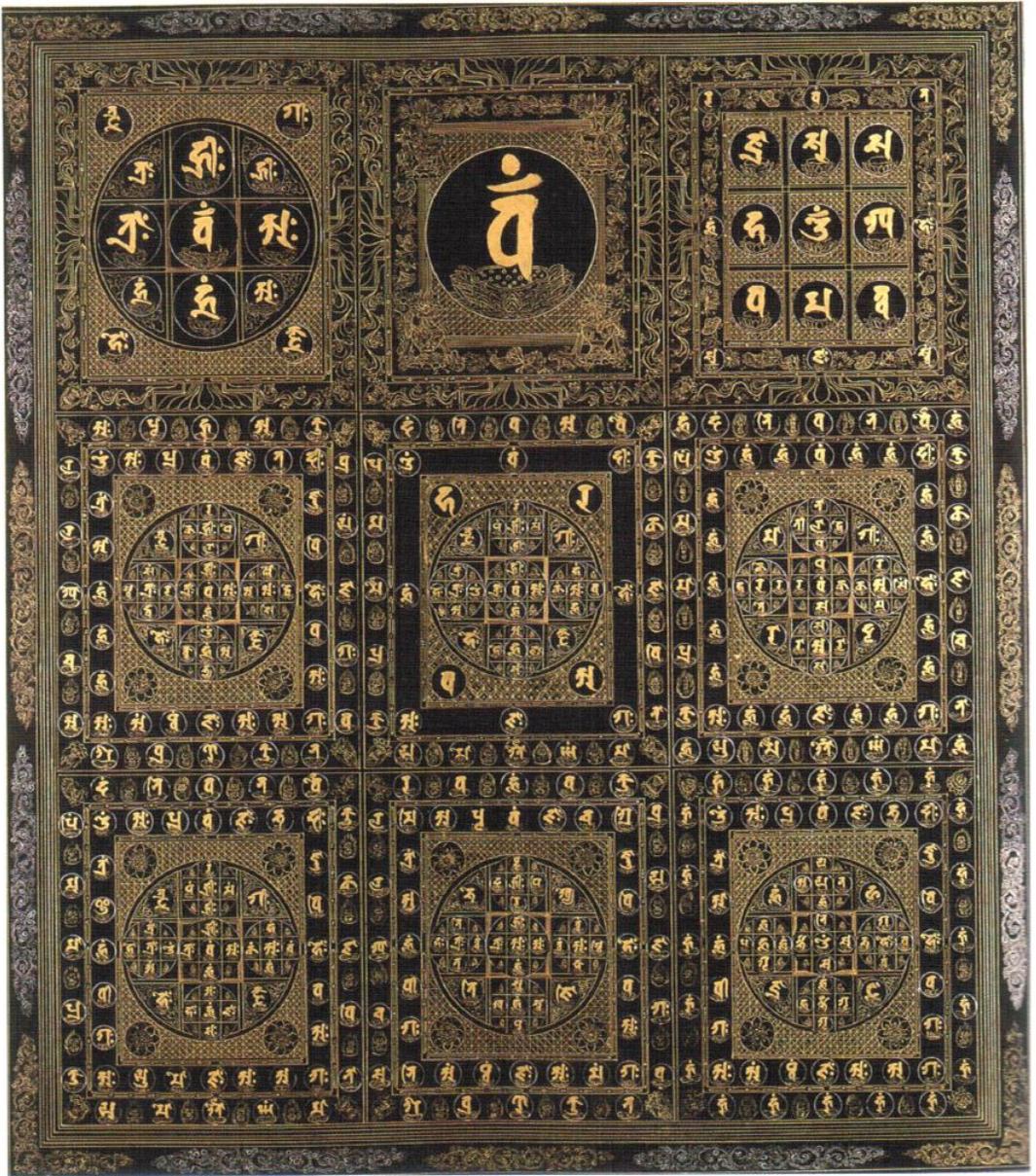


88 阿字 (あじ)

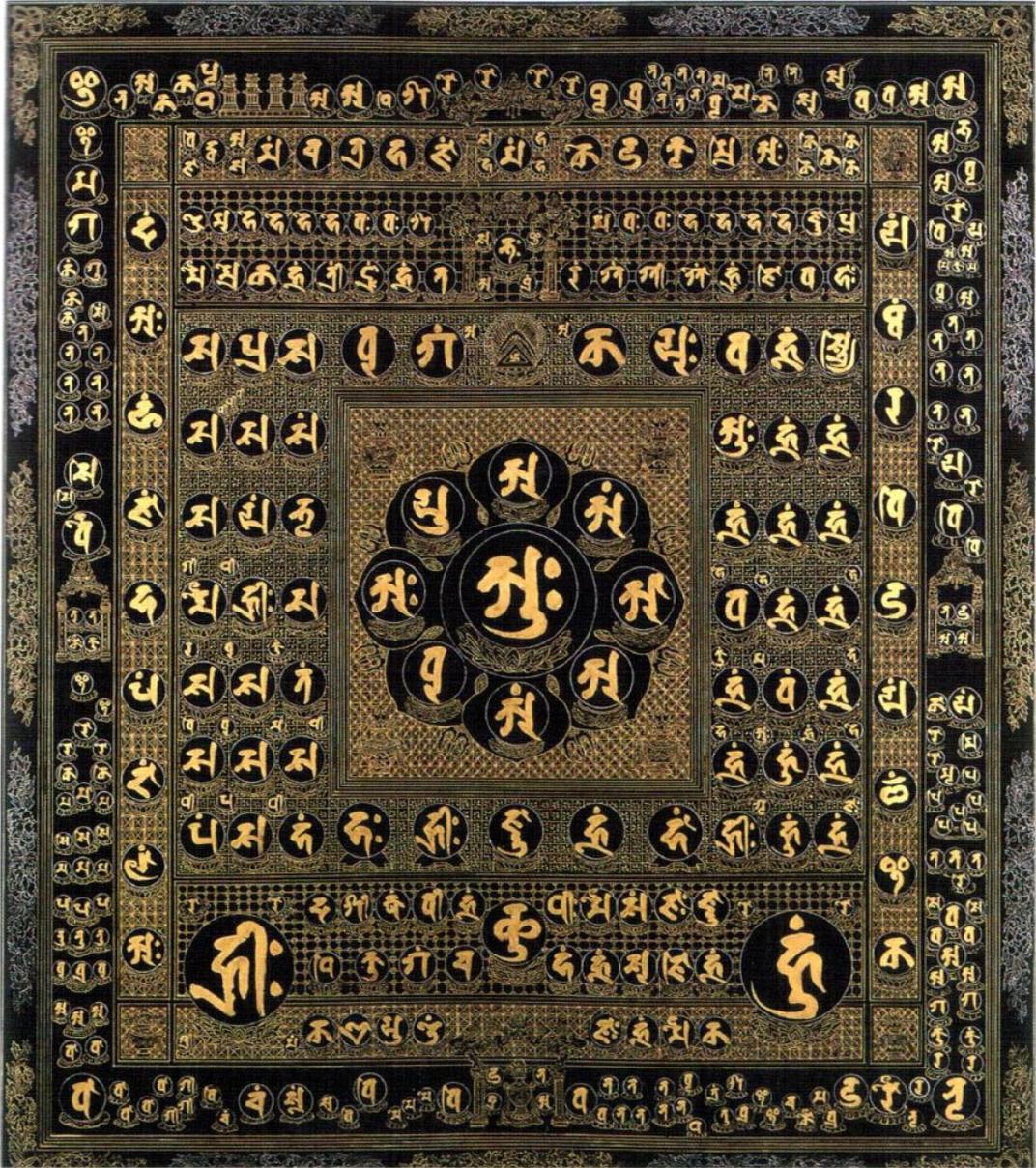
a (ア)

Aji (The Letter A)

- 真言宗に、「阿字の子が、阿字のふるさとたち出でて、また立ち返る、阿字のふるさと」という御詠歌がある。即ち「阿字」は、全ての生命の本である。生命の本を観ずる瞑想法に「阿息観」がある。口からはく息に「阿」の音をのせ、ゆっくり「あ〜〜〜」と出す。息の中に命を感じ、生きている自分を感じていくのである。
- 在真言宗里有“阿字的孩子，从阿字的故乡里出发，又返回阿字的故乡”这样的歌咏。即“阿字”是所有生命的本原。有观想生命之本的冥想法“阿息观”。从口中呼出带“阿”的气息音，再慢慢发出“阿〜〜〜”的声音。在气息中感受生命中自我的存在。
- In Shingon Buddhism the letter *a* is thought to be the source of all life. *Asokukan* is a form of meditation on the source of life. The sound of the letter *a* is slowly made along with the exhalation of the breath. Life exists within the breath, and in meditation one experiences the miracle of life.



兩界種子曼荼羅 (金剛界)



兩界種子曼荼羅（胎藏界）

あ と が き

私の芸術への考え方について触れておきます。

私たちは、人間として生まれました。幼少のときには、自立した生き方はできませんが、教育を受け、成長して自立し順次歳を重ねていきます。60年ほど前までの日本は、「人生わずか50年」と言っていました。しかし日本列島は、急激に長寿の国となり、80歳半ばまで生きるのが普通になりました。

私も71歳になりました。古来稀也の歳も過ぎました。高野山大学に奉職して以来、還暦までは弘法大師空海の研究に没頭し、論文を書くことが私の仕事とっていましたので、歳ことは忘れていました。研究とは、批判精神の上に成り立ちますので、空海の残された文章を徹底して批判してきました。そこでわかった結論は、私ごときが「批判を重ねても空海は崩すことができないということでした。

空海は、千二百年ほど前に62年の御生涯を生きて、以後千二百年の間、各時代の研究者の批判を受けながら、なおかつ今日まで生きつづけてきているのです。空海が生きているとは、どういうことなのでしょう。私の関心事はここにあるのです。

私は、空海を戴いて芸術の世界にものめり込んでいました。書道、仏像・仏画、悉曇、仏教音楽の研究等がそれでありました。今日的にいうと、文化財という世界と係わっていたといえるでしょう。60歳を過ぎると、私が求めてきた芸術が、私が死ぬと何も残らない、と不安になり、もったいないと思うようになりました。

そこで個展を考えました。平成10年(1998)7月、「静慈圓書・画展」と題し、大阪梅田、毎日新聞ビル・オーバルホールを借り切り、書と仏画を題材とし個展をしました。そこに私の芸術表現を発表しました。作品集も作りしました。

空海その人は、日本歴史の中でも第一等の国際人で実にマルチ人間です。空海研究が縁となり、中国で個展をすることとなりました。第2回個展は、平成22年6月(2010)中国杭州市「浙江西湖博物館」を借り切り「静慈圓書画作品展」をしました。書と仏画と梵字悉曇で構成し230点を発表しました。

第2回古典には、『作品集』(全186頁)と共に『日本密教と中国文化』と題した中国語の論文集(全376頁)を発刊しました。この書画展は、現代中国の文化人の結社「西泠印社」の協力を受け、大成功でした。

毎日参観者が増えました。その原因は、西泠印社が報道機関に対して事前にインタビューの場を設定してくれたの宣伝でした。これがネットで流れたのです。中国のネット社会の凄さを感じた展覧会でした。

この個展が縁となって翌年平成23年10月(2011)四川省峨眉山報国寺で第3回「静慈圓書画展」をしました。政府関係、学問の友達、文化・芸術関係の方々が無私的に係わってくれました。

これらの個展を通して、中国の人たちとの心の結びつきは、漢字によって深められることを学びました。

芸術としてこの漢字を私はどのように習ったのでしょうか。そこに「拓本」があることに気づきました。書道の古典拓本の元は、石に刻まれていました。これが、私が求め気づいた「自分を永遠に生かす」という原点であり最終点です。自分の作品は、私そのものです。これを石に残そう、「自分が生きたあかしは石に残せる」と理解しました。

そのために漢字に自分のすべてを投入しよう、石に残す場所は、漢字を素材とすることから、日本列島ではなかろう。漢字の中心は、その歴史が示すように、漢字文化圏にある、と考えました。そこに中国が必要となるのです。これが私の生き方です。

幸いにこの計画は進んでいます。中国での代表書作を示します。

福建省武夷山 自作漢詩(自然石へ刻)。福建省霞浦県・空海記念堂 自作漢詩(石碑)。
福建省福州市・開元寺 空海大師記念堂(扁額)。福建省南平市・開平禪寺 木魚(自讃)。
四川省洪雅県・月珠寺 自作漢詩(石碑)。四川省報国寺 山壽無窮(石碑)。四川省少数民族羌族 復興広場(石碑)。浙江省嵊州市・王羲之墓塔横 自作漢詩・「弘法大師空海越州碑縁起」(石碑)。杭州市龍潭 龍潭春櫻(石刻)等。

特に、書聖王羲之の墓塔の横に「弘法大師空海越州碑縁起」(石碑)を建立していただいたこと、世界遺産の武夷山の自然石に「游武夷山」の詩を刻印していただいたことは、考えられない慶事であります。

以上の作品群は、全て弘法大師空海とのご縁で中国に建立されました。ここに空海が現代に甦るといふ、時代を通して空海は生きているという空海の偉大さを如実に痛感したのです。

今回発刊の『静慈圓梵字作品 88 撰』は、芸術は民族を超えたものであるという認識に立って、悉曇文字の芸術性とその思想を探り、広めようとするものです。

作品解釈の中国語は、私が尊敬する親友肖紅岩先生に、英文は高野山大学准教授トーマス・ドライトライン先生にお願いしました。厚く感謝するものです。

弘法大師空海が高野山を開いて 1200 年の年が、平成 27 年(2015)です。本書もその年に向かっての記念出版と致します。

高野山靈宝館にて
静 慈圓

著者略歴

静 慈圓（しずか じえん）

1942年徳島県生まれ。1971年高野山大学大学院博士課程修了。1974年大阪大学大学院中国哲学専攻研究生了。1974年高野山大学講師。1982年日本印度学仏教学会賞受賞。1984年「空海・長安への道」訪中団団長として、福州（赤岸鎮）から西安（青龍寺）までの2400キロを踏破。以後訪中四十数回。この道を精査し、「空海ロード」と名づけ巡礼の道として完成した。1989年学修灌頂入壇、伝燈大阿闍梨職位を受ける。現在、高野山霊宝館館長、高野山大学名誉教授、高野山清涼院住職。博士（仏教学）。

著書に、「梵字悉曇」「梵字で書く般若心経」「空海入唐の道」（いずれも朱鷺書房）、「性霊集一字索引」「シルクロードの風」（いずれも東方出版）、「空海密教の源流と展開」（大蔵出版）、「空海の行動と思想」（法蔵館）、「弘法大師空海の金言をひらく」「はじめての梵字の読み書き入門」（セルバ出版）など。

静 慈圓 梵字作品88撰

2014年5月15日 初版発行

著者 静 慈圓 ©Jien Shizuka

発行人 森 忠順

発行所 株式会社セルバ出版

〒113-0034

東京都文京区湯島1丁目12番6号高関ビル5B

☎03(5812)1178 FAX03(5812)1188

<http://www.seluba.co.jp/>

発売 株式会社創英社／三省堂書店

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1丁目1番地

☎03(3291)2295 FAX03(3292)7687

印刷・製本 モリモト印刷株式会社

●乱丁・落丁の場合はお取り替えいたします。著作権法により無断転載、複製は禁止されています。

●本書の内容に関する質問はFAXでお願いします。

Printed in JAPAN

ISBN 978-4-86367-156-0

ISBN978-4-86367-156-0
C0015 ¥2500E



9784863671560

発行 セルバ出版
発売 創英社/三省堂書店
定価 本体2500円(税別)



1920015025005

水